

# 医療福祉支援センター

## 1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	0人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	1人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	1人

## 1-2 教員の異動状況

小林 利彦(特任教授)(平成22年年8月～現職)

## 2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名	「地域医療構想」の実現に向けた学術的支援
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	静岡県では、団塊の世代が後期高齢者となる平成37年に向けて「地域医療構想」を策定し、県内各地域での課題抽出等を図りながら、その実現に向けた取り組みを推進させることが求められている。その作業工程において、大学人として県から学術的支援の依頼があり、関連会議等へ参画するとともに、地域の各種データを分析・検討することで助言等を行うことが期待されている。
	(3)前年度までの状況	静岡県では「地域医療構想」を平成28年3月末に策定した。その作業過程において、静岡県内の医療・介護関連データを分析・検討するとともに、必要病床数などの算出や決定にあたって学術的支援を行った。
	(4)当該年度内の進捗	平成28年度は、県内9か所で開催された「地域医療構想調整会議」に直接参加したほか、当日の配布資料等の作成支援を行うことで関与した。あわせて、「静岡県保健医療計画策定委員会」に参画し、各地域における実情報告を踏まえた議論ならびに検討作業に加わった。
	(5)翌年度の方針と予想	継続的に、県内各地で開催される「地域医療構想調整会議」に参画し、より具体的な支援計画の策定に寄与する予定である。
2	(1)研究・開発等のテーマ名	地域の専門多職種の協働に向けた支援活動
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	「地域包括ケアシステム」の推進に向けて、地域における専門多職種が協働し新たなコミュニティ作りを行っていくことが求められている。その過程において、大学人として、地域の行政関係者や医療・介護・福祉関係者、そして住民をも巻き込んだ支援活動の実施を考えている。
	(3)前年度までの状況	県内各地域で「地域医療構想」や「地域包括ケアシステム」に絡んだ講演会や研修会等を開催し、地域の関係者への啓発活動等を行った。併せて、県内の中小病院において、「地域包括ケア」時代における病院運営について個別支援ならびに研修会等を行った。平成28年1月には、「平成27年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議-地域連携セッション-(長崎)」におけるシンポジウムで、「地域包括ケアを見据えた多職種間の情報連携とは？」という題名での発表を行った。
	(4)当該年度内の進捗	県内各地域にて継続的な啓発活動等を行うとともに、静岡県内の各種団体とも協働し、多職種連携に絡めた研修会等に積極的に参画した。平成28年10月には、静岡県「地域包括支援センター等職員研修」のなかで「地域ケアマネジメント」に関するグループワークも行った。さらに、静岡県と静岡県医師会が進める「在宅医療介護連携ネットワークシステム」の技術的・学術的サポートにも加わった。
	(5)翌年度の方針と予想	包括的(全体的)な研修会だけでなく、一定の地域に絞った多職種連携活動を展開する予定である。具体的には、静岡県東部地域など、比較的人口が少ない市町において、行政と関係者向けに「地域包括ケアシステム」の実践モデル案を提案し、拠点的な活動実践を試みるつもりである。

### 3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	0編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	18編 ( 18編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	1編 ( 1編 )
(5)症例報告数(うち和文のもの)	0編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000

#### (3)総説

##### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	小林利彦: 次期診療報酬改定で気になる3項目, 医事業務, 493, 2, 2016.	0.000
2.	小林利彦: 医師の地域偏在とキャリアパス, 医事業務, 495, 2, 2016.	0.000
3.	小林利彦: 地域の診療情報を集約化することで見えること, 出来ること-Nakama Projectの活動紹介-, 日本病院会雑誌, 63(4), 379-386, 2016.	0.000
4.	小林利彦: 「チーム医療と医師のキャリア」成否のカギを握るのは医師のソフトスキル-協働できる医師は活躍の場が広がる, RECRUIT DOCTOR'S CAREER, 6, 4-5, 2016.	0.000
5.	小林利彦: 「医師事務作業補助体制加算」の変更に伴う大学病院としての対応, 医師事務最前線, 春号, 12-15, 2016.	0.000
6.	小林利彦: 専門医制度と医師免許の更新制, 医事業務, 497, 2, 2016.	0.000
7.	小林利彦: 静岡県の医療クラークに関するアンケート調査-「医師事務作業補助体制加算」に注目して-, 静岡県医師会報, 1540, 20-23, 2016	0.000
8.	小林利彦: 医学生の臨床実習について, 医事業務, 499, 2, 2016.	0.000
9.	小林利彦: 病院の機能分化の流れを踏まえたこれからの「地域連携室」の役割, 地域連携-入退院と在宅医療, 9, 2-7, 2016.	0.000
10.	小林利彦: 診療データの活用, 医事業務, 500, 72, 2016.	0.000
11.	小林利彦: 「自立」より「自律」, 医事業務, 502, 57, 2016.	0.000
12.	小林利彦: 病床数の「背比べ」, 医事業務, 504, 2, 2016.	0.000
13.	小林利彦: 医師会と勤務医の関係-静岡県医師会における「勤務医委員会」の立ち上げと今後の展望, 静岡県医師会報, 1543, 5-8, 2016.	0.000
14.	小林利彦: 療養病床の今後の在り方, 医事業務, 506, 2, 2016.	0.000
15.	小林利彦: 改正個人情報保護法の医療機関への影響, 医事業務, 508, 2, 2016.	0.000
16.	小林利彦: 医療勤務環境改善マネジメントシステム, 医事業務, 22, 2017.	0.000
17.	小林利彦: 「我が事・丸ごと」地域共生社会とは, 医事業務, 511, 2017.	0.000
18.	小林利彦: かかりつけ医機能とは?, 医事業務, 513, 39, 2017.	0.000

総説数(A)小計 18 うち和文 18 IF小計 0.000

##### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

##### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

#### (4)著書

##### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	小林利彦: 医師事務作業補助者のための32時間教本〜くりかえし読んでほしい解説書〜, 洋學者, 2016.	

著書数(A)小計 1 うち和文 1

##### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

##### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計 0 うち和文 0

#### 4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

#### 4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	0 件	0 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	0 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	0 件	0 万円
(8) 奨学寄附金	0 件	0 万円

#### 6 大型プロジェクトの代表、総括

#### 7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	1 件
2) シンポジウム発表数	0 件	2 件
3) 学会座長回数	0 件	2 件
4) 学会開催回数	0 件	0 件
5) 学会役員等回数	0 件	3 件
6) 一般演題発表数	0 件	

##### (2) 国内学会の開催・参加

###### 1) 学会における特別講演・招待講演

- 小林利彦: 国立大学附属病院長会議における「地域医療PT」の立ち位置と4つの提言について. 第13回国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会. 新潟. 2016年7月.

###### 2) シンポジウム発表

- 小林利彦: 大学病院の医師事務作業補助者に期待すること. 第66回日本病院学会共同企画2. 盛岡. 2016.6
- 小林利彦: 静岡県の「地域医療構想」策定までの流れ. 第3回日本医療連携研究会・研究集会 - 地域包括ケア時代: 連携から協働へ-. 新潟. 2016年7月.

###### 3) 座長をした学会名

- 小林利彦: 第36回医療情報学連合大会. 横浜. 2016年11月.
- 小林利彦: 平成29年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議 地域連携セッション. 大津. 2017年1月.

###### 5) 役職についている国内学会名とその役割

- 小林利彦: 日本医療情報学会評議員, 日本医療秘書実務学会評議員, 日本医療連携研究会理事長

#### 8 学術雑誌の編集への貢献

	(1) 外国	(2) 国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	0 件

## 9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	0件
(3)学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0件

## 11 受賞

## 12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

## 13 その他の業績

1.	「浜松健康フォーラム」プロモーションラジオ出演,おひるま協同組合, K-MIXラジオ, 2016年5月2日.
2.	SBSサンデークリニック出演, 2025年の医療はどうなる, SBSラジオ, 2016年5月10日.
3.	SBSラジオ「静岡の100人に聞きたい」, SBSラジオ, 2016年6月2日.